正しい選び

イラスト／シミー・ブロッカー

ジャスティナ・リヒナー
ほんとうにあったお話をもとに書かれました。

「そして人は……選ぶことも自由である」（2ニーファイ2：27）

ジャスティナは，いつもよりもっとせすじをのばして席にすわり，新しい鉛筆を何本かつくえの上に置きました。今日は学校の最初の日でした。クラスメートに初めて会ったり，楽しい絵をかいたりしました。

その後，ワーナー先生が「作文の時間です」と言って，クラスのみんなに紙を配りました。「書く時間は30分です。その後，休み時間にしましょう。」

ジャスティナは，はっと息をのみました。「ああ，何てことだろう。もう書くの？」と思いました。

去年，ジャスティナは読み書きで苦労しました。友達はみんな，読んだり書いたりするのが好きみたいでした。そんなにむずかしいとは思っていないようです。今年も去年と同じだったらどうしよう。

ジャスティナはそう思いながら，鉛筆を持ちました。紙を見たら，胃がキリキリしました。ジャスティナ以外は，みんな書いていました。

ジャスティナは先生に話したいと思いましたが，ジャスティナがこまっていると知ったら，先生はおこるでしょうか。もしおこられたとしても，書くよりはましな気がしました。

ジャスティナは先生の席に歩いて行きました。「ワーナー先生。これ，去年書いたのよりも，むずかしいです。自分にはできないと思います。」

ワーナー先生は，おこっているようには見えませんでした。先生はジャスティナにほほえみかけながら，こう言ってくれました。「自分にできることをやりなさい。自分にどんなことができるかを知ったら，びっくりするわよ。得意なことばかり選べるわけではないけれど，どのくらい努力するかは自分で選べるのよ。」

ジャスティナは自分の席にもどり，ワーナー先生が言ってくれたことについて考えました。「挑戦することを選べるんだ。」それは，初等協会で学んだことと同じでした。ジャスティナのクラスで，わたしたちは「選ぶことも自由である」というせいくを読みました。それは，自分自身で選ぶことができるという意味です。天のお父様は，わたしたちには良い選びができると信頼してくださっています。お父様はわたしたちが失敗をしても，助けると約束してくださっています。

今年の学校生活は前とはちがったものになるでしょうか？たぶん，ちがったものにすることを選ぶことができるのかもしれません。ジャスティナはそう思いながら，鉛筆を持ちました。紙を見たら，胃が楽になりました。「そうだ。やってみよう」と思いました。

休み時間のベルが鳴りました。ジャスティナはまだ書き終わっていませんでした。でも，半分以上は終わっていました。手を上げて，「教室に残って，書き続けてもいいですか？ もう少しで終わるので」と聞いてみました。

ワーナー先生はにっこりして，うなずきました。

ジャスティナはやっと紙を提出しました。少し手がいたくなりました。のうみそもいたくなりました！ でも，笑顔でした。そんなにがんばって作文を書いたのは初めてでした。

次の日，読書の時間に，ワーナー先生は，みんなに20分間本を読むように言いました。ジャスティナは，またがんばって，本を開いて，声に出して読みました。

ジャスティナは毎日選ぶようになりました。本を読むことを選び，書くことを選びました。読んだり書いたりするのは，そんなにいやなことではないなと思いました。

図書館に行くことさえ選ぶようになり，どんな本があるかを見たりしました。去年だったら，そんなことは絶対にしなかったでしょう。やがて，ずっと本を読むようになりました。そして，それがほんとうに楽しいと感じました。読めば読むほど，書くのも上手になりました。

大きくなったジャスティナは，努力して熱心に読んだり書いたりしてよかったと思いました。今では，大好きなことになったからです。■

このお話を書いた人は，ドイツのラインラント - パラチナートに住んでいます。

大人になって

こんにちは。わたしはジャスティナです。書くのが好きになってから，わたしはただ書き続けました。高校でも書いて，大学に入ってからも書くことについてもっと学びました。今，わたしは作家になりました。子供のときの努力について書いたこの物語のようなお話を書いています。これまでざっしやウェブサイト，新聞の記事を書きました。